

ボン・ヴォヤージュ
bon voyage ! この言葉は きっと この港で生まれた

2600年前から続く地中海の港町
マルセイユ *Marseille*

まちあるきの考古学

その日、マルセイユは快晴でした。
パステル調の街並み、照りつける太陽と絶え間なく吹きつける海風、荒々しい岩肌の山と岸壁へとつづく坂道、街角にはブイヤベースの香りが漂う。
マルセイユはまさに「港町」でした。

今から2600年前にギリシャ人により開かれたという旧港(Vieux Port)を中心に、マルセイユの歴史的な街並みは広がっています。
旧港を囲む瓦葺の建物は5・6階建ての石造り。1階にはカフェレストラン、2階より上がホテル。縦長の窓は観音開きでバルコニーはありません、背後の傾斜地には、ファサードを旧港に向けた建物が重層的に建ち並びます。

フランスはかつての植民地北アフリカ(マグリブ)諸国から、多数の移民(黒人のイスラム教徒)を受け入れてきましたが、マルセイユはその玄関口でした。
港湾での荷役労働者も多く、最近まで危険な都市のイメージがありました。

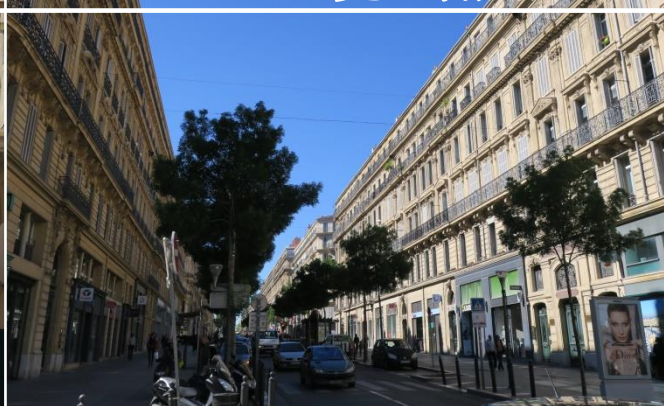
ヌーベルバーグの時代(1960~80年)、マルセイユを舞台にした映画(「勝手にしやがれ」「フレンチコネクション」など)では、ギャングや不良が闊歩する危険な港町として描かれました。

いま、「旧港」は多数のヨットやクルーザーが係留されるマリーナとなり、岸壁は観光客であふれ、港湾荷役の街はリゾート都市に様変わりしていました。



まちあるきで見つけた

マルセイユ 歴史の名残り



オスマン通り

19世紀後半、オスマン市長によるパリ大改造は、地方都市の再開発にも大きな影響を与えました。旧港から新港まで一直線にのびるこの通りは、新港開発に伴い築造されました。沿道の景観はパリそのもの。近代港湾都市に飛躍したマルセイユを代表する街路。

旧港とノートルダム・ド・ラ・ギャルド

19世紀半ば、街が貿易港として急成長していた時代、港を見下ろす高台に建築されたバジリカ教会は、マルセイユの象徴。不釣り合いなほど大きい塔楼には、街を見守るように黄金の聖母像が立っています。地中海一の港町マルセイユを代表する風景です。

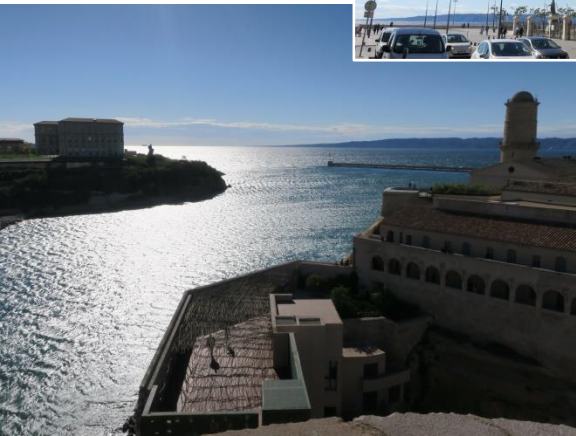
パニエ地区
アフリカ系移民が多く住む、地中海の港町を象徴する地区。

路地を挟んで建て詰まる家々、色とりどりの外壁には落書きが。最近では観光地化しています。



大聖堂

海沿いに建つ19世紀建築の大聖堂は、この街が港町であることを象徴しています。隣には12世紀建築の旧大聖堂が現存。



旧港入口は巾150m。両岸には、要塞が設けられマルセイユ港を難攻不落の軍港にしていました。



もう少し詳しい マルセイユの地理

フランスには4つの大河があり、それぞれの河口には歴史ある港町があります。

ガロンヌ川にはボルドー、セーヌ川にはルーアン、ロワール川にはナント、そして、ローヌ川の河口にはマルセイユがありました。

四大大河のうち、唯一、地中海を河口とするローヌ川は、ローマ時代から内陸への水運ルートとして重視されてきました。

地中海を制したローマ人が、ガリア(フランス)内陸部、そして大西洋岸に進出するための幹線交通路だったのです。

ローヌ川河口には広大な三角州があり、カマルグ自然公園などの湿地帯が広がっています。そして、河口の東と西では、海岸線の様相が大きく異なります。

西の海岸は、潟湖と砂州がスペイン国境まで続き、ラングドック地方とよばれます。東の海岸がプロヴァンス地方です。石灰岩地形が河川浸食により生まれた入江はカラंकとよばれ、海岸景勝地で知られています。

旧港はカラंकのひとつで、巾300m、奥行1000mのすり鉢のような形状をしていて、湾口の両岸には要塞が設けられた小高い丘があることは既に記しました。

街の象徴であるバジリカ教会(ノートルダム・ド・ラ・ギャルド)は石灰岩台地の頂上に立地しています。

地勢的にも地形的にも、マルセイユはまさに天然の良港だといえます。

現在のマルセイユは、フランス第二の都市(人口85万人)であり、地中海最大の貿易港であり、石油化学と鉄鋼を中心とした工業都市でもあります。

マルセイユが巨大貿易港への歩みを始めたのは、19世紀前半から始まるフランスの北アフリカ進出が契機でした。続いて、フランス人実業家レセップスによるスエズ運河の開通により、インドを始めとするアジアへの進出も始まります。マルセイユは帝国主義国家フランスの海外進出拠点として発展したのです。

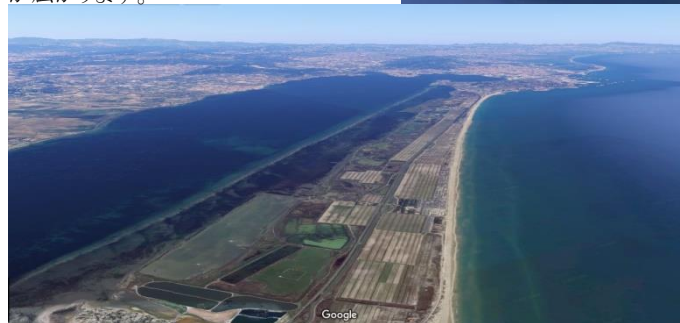
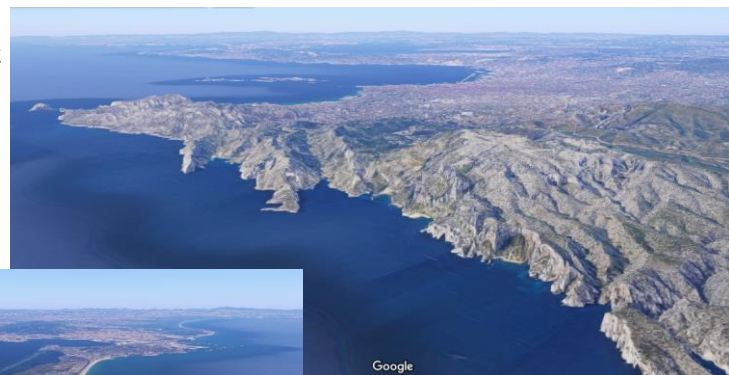
工業都市化は第二次世界大戦後でした。パリー極集中の解消を目的とした産業分散政策と鉄鉱石・石油等の国内原料枯渇による臨海部での原料輸入型産業への転換でした。これにより、ローヌ川河口の、塩田しかなかった広大な三角州が、フランスを代表する一大工業地帯へと変貌してきました。

地中海フランスの歴史が積み重なったマルセイユは、とても素敵な街でした。



プロヴァンスの海岸線
カラंकが連続する海岸線には
モナコや鷹の巣集落エスなど
の景勝地が点在しています。

ラングドックの海岸線
砂州の後背地には潟湖(ラグーン)
が広がります。



まちあるきの考古学

近くのまちあるき [ボルドー](#)
[リヨン](#)
[ゴールドとレ・ボー](#)